

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471300424
法人名	社会福祉法人 一燈会
事業所名	グループホーム はなの家
訪問調査日	平成19年11月12日
評価確定日	平成19年12月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1471300424
法人名	社会福祉法人 一燈会
事業所名	グループホーム はなの家
所在地	259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮490-1 (電話) 0463-70-6200

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成19年11月12日
評価確定日	平成19年12月28日

## 【情報提供票より】(平成19年10月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平) 18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	16 人
非常勤	1 人
常勤換算	8.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造作り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	130 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	住田医院、原歯科クリニック
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営は社会福祉法人一燈会で、関連には老人福祉施設、老人保健施設、デイサービスセンター4カ所、高齢者支援センター3箇所、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション、それにグループホーム4ヶ所からなる一大福祉グループの1つである。この介護方針は「誰よりもお客様の身になって」作られている。その精神は理念及び品質方針としてリビングに掲示されている。「はなの家」ではこの理念の実現のために「ありがとうがいっぱい」をテーマフレーズとして日夜努力している。この最大のメリットは大きな福祉グループなので、ターミナルに至るまでのノウハウを持っていることである。「ありがとうがいっぱい」は登山者がすれ違いに挨拶する自然さで感謝の気持ちが素直に表せ、やさしさが通じあうことを目指している。ISO取得の一燈会なので職員が自ら業務目標と成長目標を掲げて取り組む体制が定着している。職員は目標として「地域の高齢者1人と友達になる」と云った具体的なものを実行している。これなどは地域と密着する良い行動の1つと云える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>前回の評価での指摘は無かったが、今年度、試行錯誤を繰り返しながら取り組んで来た「クラブ活動」がようやく定着し、利用者さんの意欲の向上に寄与出来、介護活動の広がりについて改善に役立つようになってきた。「クラブ活動」は1つずつ別の職員が担当し、企画、立案、実施について創意工夫を自ら行いながら成果を上げている。実施している「クラブ活動」には手芸、書道、絵画、華道、園芸などがある。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>自己評価に対する認識は全員理解出来ている。自己評価は全員で行い、各ユニットの自己評価をユニット長が纏め管理者がチェックして各ユニット毎の自己評価を作り上げた。ユニット毎の自己評価は各ユニットの目標と云う形で展開し、外部評価のプロセスでの気付きや評価の指摘事項も考慮しつつ改善図って行く予定にしている。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>運営推進会議は既に4回実施している。そのうち1回は1周年記念行事と併せて開催した。運営推進会議のメンバーは自治会長、老人会会長、二宮町介護保険課職員(2名)、ご家族代表、はなの家関係者である。運営推進会議の成果としてはご家族の全般的なご意見の把握、地域情報や行政情報の把握などの他、例えば老人会のお掃除活動への参加など具体的な活動に繋がるケースも出て有意義である。今まで一燈会関連施設で地域には知名度は高かったが、運営推進会議によりこのホームとしての地域との連携が強まった。</p>
	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>ご家族へは個別のご家族に対し利用者さんの状況の報告を毎月お手紙でお知らせする他、運営推進会議や来訪時などにご意見を伺い運営に反映させている。利用者さんはそれぞれ状況が異なるので、個別対応を心がけ、特に退去されるケースでは退去後の介護についても出来る限り支援するよう努めている。特に一燈会には関連施設があるので、その活用による支援は大きい。</p>
重点項目④	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>地域密着についてのイメージは「ありがとう」の感謝の気持ちをベースとし、山登りのように挨拶を欠かさず、地域に対しホームとして、個人として何が出来るかを常に考えていることと捉えている。具体的にはペットボトル風車を作って持って来てくれる隣人、子連れで遊びに立ち寄る親子、ふらっと遊びに来る小学生など自然な近所付き合いを大切にしている。1周年などの行事やラジアン学習センターへの作品(クラブ活動の成果)展示などは定着している。日々の暮らしが地域に定着するのを大切にしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お客様・地域の方・ご家族・職員が各々の立場から「ありがとう」を沢山感じる事の出来るホーム作りを目指して「ありがとうがいっぱい」を理念としている。職員は各自「目標を立てることになっているが、ある職員が「地域の高齢者の友達を1人作る」と云う目標を立てた。職員全体が地域密着を意識し取り組んでいる例である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々「ありがとうございます」の言葉を発しながら感謝の気持ちを実感できる雰囲気が出来ている。		電話に出る際も「お電話ありがとうございます」の言葉をつけるなど、色々な場面で感謝の気持ちを持ってよう実行出来ている。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の情報収集を行い、老人会の地域清掃へ参加し、地域行事(夏祭り・どんど焼き等)に参加するなど交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム全体として意義の理解と評価の把握は出来ている。評価を活かして改善に向けた努力を続けて行く。	○	意義の理解と評価の把握にとどまらず、各ユニット目標という形で1つずつ取り組んで改善に努めて行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の成果としてはご家族の全般的なご意見の把握、地域情報や行政情報の把握などの他、例えば老人会のお掃除活動への参加など具体的な活動に繋がるケースも出て有意義である。今まで一燈会関連施設で地域には知名度は高かったが、運営推進会議によりこのホームとしての地域との連携が強まった。	○	趣味活動への取り組み実行や、ホームの予定表の送付、検討中住宅改修についてのお知らせなど要望に添って対応して行く予定である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他に転倒などの事故報告書の提出・役場からの介護相談員の受け入れ、役場から研修の連絡などで関わっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回近況報告として手紙を送るようにしている。その他には面会時や電話するなどし報告している。		暮らしぶり・変化・お預かり金など緊急を要するか判断をしながら報告出来ている。事故報告はすぐに電話連絡している。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも受ける体制が出来ている。契約書にも記載されており、運営推進会議や面会時などでも意見を伺い、運営に反映させている。	○	更にご意見を伺うべく、ご家族アンケート実施を検討中である。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑える努力をしており、離職率は少ない。ユニット異動についても配慮しながら行なっている。		年間行事などで1・2階共に利用者と職員の交流を行い、慣れない職員だけとならぬよう異動を考え、ユニット毎の勤務表を組んでいる。働きやすくする為に細かい業務表があり、ADLチェック表なども活用している。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報の提供をし、自主的に学べるようにしている。職員と対話をもち個人が何を学びたいかを把握した上で、研修を受ける機会を確保している。(月1名ずつ実行中)		研修は正職員やパートなど関係なく全職員対象に研修に行く機会を設けている。研修受講後は研修記録をみんなで共有している。もっと勉強会を行うよう企画して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流がある。法人外に関しては交流をはかる為にクラブ活動への招待等行なっているが定着には至らず今後も継続して努力を続けて行く。		月1回法人内他施設の研修に行き、また法人内の勉強会には参加している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは見学で雰囲気を感じて頂き、面接時に昼食を食してもらったり、必要に応じて短時間の体験入所を実施している。法人内の訪問介護やデイの利用からの親近感での入居の増加を期待している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室の掃除や、料理の場面で、「一緒に過ごす」ことに努めているがまだ充分とは思っていない。	○	「介護する立場」から「一緒に過ごす」ことの大切さを指導し、実践中である。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどんな生活を望んでいるか個別ケアの充実には事業計画の1つでもあり、居室担当を中心に努力している。困難な人に対しては検討に一層の工夫が必要と感じ努力中である。	○	困難な方に対して本人の気持ちを本人本位に考えていく事の大切さを感じ考えられる力をつける話し合いの場を作る努力を重ねている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当を中心に日常会話の中で、意見や思いを情報収集し、カンファレンスで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネが指揮をとって、必要に応じて現状に即した計画作成に努めている。見直しが必要と判断したときに、すぐに計画の見直しを行っている。	○	見直しが必要と判断したときに、遅滞無く計画見直しに取り組める体制を固めたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の訪問介護やデイの利用からの親近感での入居の増加を期待している。ご家族は希望により泊まって行かれたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への報告・相談を行ないながら本人の状態把握して頂き、適切に指示・診察して頂けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療の対応が必要になる場合に備え、入所時には特養への申し込みの話もしている。主に管理者が携わっているが、全員に方針の共有を認識するよう教育している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の際、その人だけに聞こえるような声掛けの努力をしているが必ずしも万全ではない。	○	スタッフ間で気付いたら注意し合う習慣を定着させたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日出かけたい所に出かけたり、疲れている時には休んでもらったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状、片付けは手伝ってもらっているが、ADLの関係もあって、料理はスタッフ1人で行う時もある。	○	声をかければ、料理に参加できる方もいるので声掛けを行うことに努めている。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい人には毎日入浴して頂いたり、希望に合わせて朝から夜まで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割はある人少ない人と居るが、自主性により出来ている。散歩、行事、買い物、外食、クラブ活動など自由参加で頻回に企画している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に自ら行きたいと訴えられる方が少ないため意識して声掛けをしている。また、外出内容や声掛けの工夫を大切と感じている。		散歩、外食、ドライブ、ショッピングなど訴えあればすぐ対応している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開けており、ユニットの出入り口の戸は安全を判断した時は常に開けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方に来てもらい火災訓練を行っている。地域の人々の協力については、まだ働きかけていない。	○	日頃より地域の人との関わり及び運営推進会議での話し合いを大切にして対応していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かいカロリー計算はしていないが、かたよらないメニューにしたり摂取量を記録に残して把握している。また、個人に合わせた食事形態で提供している。		きざみ食やトロミの水分なども取り入れている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて貼り紙を飾っており、ご利用者も視線を向けている。	○	ご利用者に安心して過ごして頂けるよう、職員の動きや声のトーンへの配慮は課題とし努力中である。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ家族で使われた家具等が持ち込まれている。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム はなの家
所在地 (県・市町村名)	259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮490-1
記入者名 (管理者)	久保田 桂子
記入日	平成 19 年 10 月 6 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お客様・地域の方・ご家族・職員が各々の立場から「ありがとう」を沢山感じる事の出来るホーム作りを目指して「ありがとうがいっぱい」を理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々「ありがとうございます」の言葉を発しながら感謝の気持ちを実感できる雰囲気が出来ている。		電話に出る際も「お電話ありがとうございます」の言葉をつけるなど、色々な場面で感謝の気持ちを持てるよう実行出来ています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念については看板に示したりしているが、その理念がどんな意味を持っているかについては、理念という形で伝えるのではなく、職員の持つ想いとして日常の会話などで伝えるようにしている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>●老人会の地域清掃に参加している</li> <li>●年1回地域の方に対してはなの家感謝祭に招待している。</li> <li>●ゴミ捨て場の清掃を行っている。</li> <li>●散歩時は自ら進んで挨拶を実行中</li> </ul>
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	老人会の地域清掃や散歩時の挨拶より立ち話ができるようになりました。その中で気軽に立ち寄って頂けるよう声掛けもしています。	○	ご近所の方がボランティアに来て下さったり、子供が遊びに来てくれたりする事があります。近所の独居高齢者や働らく親をもつ子供達がホームで気軽に時を過ごせるような環境を考えていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会に加入し地域の情報収集に努めている。</li> <li>●老人会の地域清掃へ参加させていただいている</li> <li>●地域行事(夏祭り・どんど焼き等)に参加している。</li> </ul>		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居相談や手配は相談希望があった時に対応させて頂いている。その他には話し合いや取り組みは行っていない。</p>	○	<p>地域高齢者に、はなの家クラブ活動を提供し、楽しみの一つとなるよう考えて行きたい。</p>
---	---------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------	---	-------------------------------------------------

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>意義の理解は出来ているが、評価を活かしてというよりも日々目の前にある問題に取り組むのに必死である。</p>	○	<p>意義の理解と評価の把握にとどまらず、各ユニット目標という形で1つずつ取り組んで改善に努めていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での内容はすべて会議録に残し職員へ周知。すぐに取り組める事やその必要性の大きい事より実行に移せている。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●趣味活動への取り組み実行しています。</li> <li>●ホームの予定表がほしいと希望あり、送付しています。</li> <li>●住宅改修について検討中。</li> </ul>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の他に転倒などの事故報告書の提出・役場からの介護相談員の受け入れ、役場から研修の連絡などで関わらせて頂いています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は管理者研修で学んでいるが、その他取り組み行っていない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>注意を払ってはいるが、学ぶ機会は設けていない。</p>		

項目

取り組みの事実  
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容  
(すでに取り組んでいることも含む)

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書など読み上げお渡しし分かるまで説明させて頂いている。疑問や不安もしっかり尋ねて解消に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活では利用者の不満等きちんと聞きどうしていくか話し合いをし実行できています。二宮町より生活相談員が来られ話を聞いて下さっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回近況報告として手紙を送るようにしている。その他には面会時や電話するなどし報告している。		暮らしぶり・変化・お預かり金など緊急を要するか判断をしながら報告出来ています。事故報告はすぐに電話連絡しています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも受け付けています。契約書にも記載されています。運営推進会議や面会時などでも意見を伺い、運営に反映させています。	○	ご家族アンケート実施を検討中。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議の他に、日々の会話や年2回の面接・カンファレンスなどが機会となっており、一緒に考えながら反映させている。	○	職員アンケート実施検討中。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	様々な状況の変化に合わせて業務変更、行なえています。	○	ユニット長中心に行なっていますが、全職員の意識改革も必要。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑える努力をしており、離職率は少ない。ユニット異動についても配慮しながら行なっている。		●年間行事などで1・2階共に利用者と職員の交流がある。 ●慣れない職員だけとならぬよう異動を考え勤務表を組んでいる。 ●働きやすくする為に細かい業務表があり、ADLチェック表なども活用している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

## 5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み	研修情報の提供を1 主体的に学べるようにしている	●正職員やパートなど関係なく全職員対象に研修は
-------------	--------------------------	-------------------------

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修情報の提供をし、自主的に学ぶようにしている。職員と対話を持ち個人が何を学びたいかを把握した上で、研修を受ける機会を確保している。(月1名ずつ実行中)</p>		<p>● 正職員やパートなど関係なく正職員対象に研修に行く機会を設けている。 ● 研修記録をみんなで共有している。 ● 勉強会を行っていききたい。</p>
20	<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人内での交流はあります。法人外に関しては交流をはかる為にクラブ活動への招待等行なっているが、一方的なものとなっている。</p>		<p>● 月1回他施設の研修に行っている。 ● 法人内の勉強会参加。</p>
21	<p>○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>連休の取得を考え勤務表作成や有休の取りやすい環境作り・又定時で帰りましょうの声掛けを行っている。</p>		<p>どんなストレスがあつて、どんな解消法があるのか職員アンケート実施を検討。</p>
22	<p>○ 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務姿勢の他にバランススコアカードを採用し職員個々が目標設定し、それに向かった努力をしている。給料やボーナスへ反映させている。</p>		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○ 初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学や入所面接・体験入所などで本人との会話を大切に受け止める努力をしている。</p>	○	<p>収集した本人の気持ちを職員全体で理解し関わられるような体制作りと指導力に努める必要性がある。</p>
24	<p>○ 初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学・申し込み・入所面接を利用し、ご家族の不安を和らげるような会話を心掛けている。</p>	○	<p>収集した本人の気持ちを職員全体で理解し関わられるような体制作りと指導力に努める必要性がある。</p>
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○ 初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時、本人の状態把握に努めた上で情報提供し手配を行っている。(マッサージ・福祉用具利用などがおもである。)</p>		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは見学で雰囲気を感じて頂き、面接時に昼食を食してもらったり、必要に応じて短時間の体験入所を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	居室の掃除や、料理の場面で、スタッフが1人でやってしまうことがあり、「一緒に過ごす」ことがまだできていない。	○	「介護する立場」から「一緒に過ごす」ことの大切さを指導中。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状は、ありのままお伝えし、一緒に考えて頂くことも多々あります。また、行事などにも参加して頂き、時間の共有の場を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	なかなか面会に来ることができない家族に電話して少しでも話す時間をつくる等、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みであった場所や人については把握はしているものの、支援については、まだ不十分である。	○	馴染みの場所であるところにお連れしてみたり、馴染みの人に手紙を書く等の支援をしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係把握は出来ているが認知のレベルが生活している中でどうしても利用者同士、コミュニケーションがとりづらくなってきている人もいる。	○	日々、勉強中である。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	H18. 3月オープンし、退所者はまだ出ていない。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどんな生活を望んでいるか個別ケアの充実や事業計画の1つでもあり、居室担当を中心に努力しているが、困難な人に対しては検討内容に未熟さがある。	○	困難な方に対して本人の気持ちを本人本位に考えていく事の大切さを感じ考えられる力をつける話し合いの場を作る。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に生活歴等、聞いた上で尊重している。日常の本人との会話からも把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	居室担当の意識のもと、それぞれ担当のお客様を把握しようとして努めている。有する力について意識低い。	○	本人の有する力を見逃していないか、見逃しているのであれば、何故かを話し合う場を作り、意識の向上に努める。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当を中心に日常会話の中で、意見や思いを情報収集集したものを持って介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネが指揮をとって、必要に応じて現状に即した計画作成に努めている。	○	見直しが必要と判断したときに、すぐに計画作成に取り組める体制作り。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニットノートも活用してケアの実践、結果、気づき等記録に残し共有している。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	希望により、家族が泊まって行かれたりする。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	クラブ活動にはボランティアさんに協力をして頂いている。幼稚園と交流させて頂いている。		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	主に福祉用具とマッサージの利用	○	本人の意向と必要性を考え、他サービス利用のシステム作り
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	地域包括支援センターとの関わりはもてていない。		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	かかりつけ医への報告・相談を行ないながら本人の状態把握して頂き、適切に指示・診察して頂けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	職員が本人の状態を考え、必要に応じてご家族と話をした上で受診している。又受診しなくても色々相談にのって頂いている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	チームとしての関係までは築けていない。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の情報提供行っています。本人の情報収集と相談をさせて頂き、退院後のケアにつなげられるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時には特養への申し込みの話もさせて頂いている。主に管理者が携わらせて頂いているが、全員で方針の共有は課題である。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化されたお客様へ日々必死に取り組んでいるので、事業所として見極めもその時々によるのが現状。		ターミナルケアについて学ぶ
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供は細かく記録しお渡しするようにしている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の際、その人だけに聞こえるような声掛けができていない。	○	今後、スタッフ間で気付いたら注意し合う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知の重い方に関しての働きかけが不十分。	○	衣類を選ぶ等、自分で決めることを大切にされたケアに努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日出かけたい所に出かけたり、疲れている時には休んでもらったりしている。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば美容院への付き添いをしている。入浴時の衣類選びをスタッフがしている場面がある。	○	入浴時等の衣類選びは、お客様にまかせる。1人で困難な場合はスタッフと共に選ぶ。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けは、お客様と行っているものの、料理はスタッフ1人で行っている時もある。	○	声をかければ、料理に参加できる方もいるので声掛けを行うことに努力中。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーが好きなお客様には、ご自分で自由にコーヒーを入れて飲んでもらっている。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努めた上で使用物品、対応方法を決めて支援している。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい人には毎日入浴して頂いたり、希望に合わせて朝から夜まで対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝る時間は個々の生活習慣を尊重している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割はある人ない人と居られるが、自主性により出来ている。 散歩、行事、買い物、外食、クラブ活動など自由参加で頻回に企画あります。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望により殆どの方がホームにお金を預けている。 買い物時に財布を渡しているスタッフは少ない。	○	買い物時、財布を渡して見守る。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に自ら行きたいと訴えられる方が少ないため提案として声掛けをしている。また、外出内容や声掛けの工夫を大切に感じている。		散歩、外食、ドライブ、ショッピングなど訴えあればすぐ対応させて頂いている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があれば美術館に行ったり講演会にお連れしている。 日常会話の中で情報収集し実行している。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればかけている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援	問して		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過 せるよう工夫している	いる。明るく元気にあいさつをし、おもてなしの心を持 つよう 努めている。		職員もお茶をお出ししながら会話に入り雰囲気作りを して いる。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定 基準における禁止の対象となる具体的な行 為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをしている。やむをえない場合は 家族 に相談している。言葉の拘束はゼロとは言えない。	○	利用者の不穏時に「座って下さい」と声掛けするこ とも 多い。今後もこのような言葉の拘束についても話し合 う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関 に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を かけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開けており、ユニットの出入り口の戸は安全 を 判断した時に開けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している	待機者は利用者の所在や様子の把握に努めている。 夜は2時間毎に様子を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 組みをしている	歩行不安定な人も居られるので意識しており、危険性 を感じ たら伝言ノートなど活用し内容に応じた取り組みをして いる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じ た事故防止に取り組んでいる	危険予測意識向上の指導やひやりハットノートや危険 を予測 した上での業務表作成、伝言ノートや言葉の申し送りな どで 防止に取り組んでいる。		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	殆どのスタッフはオープン前に救急講習を受けたり、法 人内 の看護技術チェックを受けた。定期的には行えていな い。	○	緊急時にしっかり対応できるよう、定期的に講習の機 会を つくる。
	○災害対策	消防署の方に来てもらい火災訓練を行っている 地域		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	住居者の力にも関わらず火災訓練を行っている。地域の人々の協力については、まだ働きかけていない。	○	日頃より地域の人との関わりを大切にしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の意思の尊重や個人の状態を含めた危険性をご家族に認識してもらえよう会話を密に行っている。また、一緒に考えてもらったりもしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個別日誌記録、上司への報告相談を徹底し対応に結びつけている。また、申し送りノートを活用して共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や用量については分かりやすいようにエルクボードに貼ってあるが、薬の目的、副作用については理解できていない。	○	今後、薬の目的、副作用等書いたファイルを作り職員全員で周知していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すために便秘の方には飲むヨーグルトを飲んでもらったりしている。また、毎朝食メニューにも牛乳、ヨーグルトなど取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的には毎食後、口腔ケアを行っているが、生活リズムや不穏等の原因で毎食後行えない方もいる。		
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かいカロリー計算はしていないが、かたよらないメニューにしたり摂取量を記録に残して把握している。また、個人に合わせた食事形態で提供させて頂いている。		きざみ食やトロミの水分なども取り入れている。
	○感染症予防	うがい、手洗いの徹底		

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	つかい、手洗いの徹底。 フロア、トイレ、手すり等もハイター水でつけた雑巾でふいて いる。消毒液も常備している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は毎食後きれいにしており、ひどい汚れ物は、ハイターにつけたりしている。 食材も毎日買い物で仕入れるようにしている。 消毒液も常備している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は玄関の戸を開けており、家族もチャイムを鳴らすとこと なく2Fまで上がったりしている。 玄関には季節の花を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて貼り紙を飾っており、お客様も視線を向けている。	○	お客様へ安心して過ごして頂けるよう、職員の動きや声の トーンへの配慮は課題である。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で横になって休む人がいたり、ソファに座ってテレビを見たりと、思い思いに過ごさせている。特に工夫をしたわけではない。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ家族で使われた家具等が持ち込まれている。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>こまめに換気している。 冷暖房もお客様の体感に合わせて使用。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>階段等まだ必要と思われる場所がある。</p>	○	<p>滑り止め購入検討中。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個人の認知力を把握し、環境作りを考え対応している。混乱や失敗が生じた時も、すぐに解消できるよう対応に務めている。</p>		<p>自室の分からなくなってしまう方への取り組み。 ダンスに衣類をしまいやすくする工夫など。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>裏庭にベンチを置き、天気の良い日には日光浴をするお客様が、たくさんいる。</p>		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月1回ユニット会議を行ない、状況に応じて柔軟な対応が出来る。  
 多くのボランティアを受け入れ、充実したクラブ活動や行事を行っているところ。  
 地域密着型として又お客様の気分転換に近所を散歩する事は日課となっています。